

BSE 関係飼料規制の実効性の確保（平成28年度）

BSE 関係飼料規制については、平成 17 年 5 月の食品安全委員会による「我が国における牛海綿状脳症（BSE）対策に係る食品健康影響評価」において、その実効性を確保するため、①輸入飼料に係る交差汚染の防止、②販売業者における規制の徹底、③牛飼育農家における規制の徹底及び④製造段階における規制の徹底が答申されたことを踏まえ、毎年度、飼料規制の実効性を確保するため、①から④までの施策の遵守状況を食品安全委員会に報告してきたところ。

平成 28 年度の結果については以下のとおり。

1 輸入飼料に係る交差汚染の防止

飼料安全法に基づく輸入業者からの届出により、輸入飼料に反すう動物由来たん白質が使用されていないことを確認している。平成28年度は、輸入された飼料29点（別表1）について、（独）農林水産消費安全技術センター（以下「FAMIC」という。）で検査した結果、牛由来たん白質は検出されなかった。

2 販売業者に対する規制の徹底

都道府県が、飼料又は飼料添加物の販売事業場（16,057か所）に対する検査を773件実施したところ、法令違反につながる可能性のある不適合が4件あった（別表2の1）。

当該不適合の内容は、飼料等の保管等における取扱いの不備であり、牛等への給与飼料と鶏・豚等給与飼料の区分保管等の徹底等の改善指導を行い、必要な是正措置が講じられた。

なお、当該不適合を端緒とした保管場所における牛用飼料への混入等は確認されなかった。

3 牛飼育農家に対する規制の徹底

都道府県が、牛飼育農家（68,900戸）に対する検査を3,709件実施したところ、法令違反につながる可能性のある不適合はなかった（別表2の2）。

また、地方農政局が、牛飼育農家（68,900戸）における飼料の使用実態を調査（500件）したところ、規制されている動物性飼料を給与した事例はなかった。

4 製造段階における規制の徹底

FAMIC及び都道府県が、飼料等製造事業場（3,269か所）に対する検査を756件（FAMIC：421件、都道府県：335件）実施したところ、法令違反につながる可能性のある不適合が4件（FAMIC：3件（別表2の3）、都道府県：1件（別表2の4））あった。

不適合の内容は、帳簿の備付けの不備（1件）、表示の不備（1件）、届出等の不備及び保管等における取扱いの不備（1件）であり、帳簿の適切な整備、適切な表示等、牛等への給与飼料と鶏・豚等給与飼料の区分保管等の徹底等の改善指導を行い、必要な是正措置が講じられた。

なお、当該不適合を端緒として、飼料安全法第3条第1項の規定による基準又は規格に適合しない飼料が製造された事例はなかった。

(別表1)

○ 輸入飼料の検査点数（平成28年度）

飼料の種類	検査点数
混合飼料	(23点)
単体飼料	(6点)
<hr/>	
米国産	13点
中国産	4点
フランス産	4点
台湾産	2点
ブラジル産	2点
アイルランド産	1点
英国産	1点
シンガポール産	1点
スペイン産	1点
合計	29点

注) 輸入魚粉については、動物検疫所が検疫しており、輸入魚粉から魚介類以外の動物由来たん白の混入が認められた場合は輸入停止を指示。

○ 販売業者等における不適合事例（平成28年度）

1 販売業者（4件）

該当する不適合事例の種類		概要（是正措置等）
飼料等の保管、輸送等における取扱いの不備	4 件	A飼料とB飼料の分離保管が不十分

2 牛飼養農家（0件）

不適合事例なし

3 製造業者（FAMIC）（3件）

該当する不適合事例の種類		概要（是正措置等）
帳簿の備付けの不備	1 件	帳簿の記載事項の不備
表示の不備	1 件	表示票の未作成
届出等の不備	1 件	大臣確認変更申請の不備

4 製造業者（県）（1件）

該当する不適合事例の種類		概要（是正措置等）
飼料等の保管、輸送等における取扱いの不備	1 件	飼料と肥料の分離保管が不十分

注) 1. 「A飼料」とは、飼料等及びその原料のうち、農家において反すう動物（牛、めん羊、山羊、及びしかをいう。以下同じ。）に給与される又は可能性のあるものとして、動物由来たん白質が混入しないように取り扱われるものをいう。

2. 「B飼料」とは、飼料等及びその原料のうちA飼料以外のものをいう。